梅鶯仏教壮年会報

第152号
2018年
10月21日

法輪寺報恩講（梅鶯仏壮報恩講併修）

十一月十七日（土）

念仏　念仏いうけれど
念仏してみりやすぐわかる
念仏なかなかもうせぬと
信心　信心いうけれど
信心してみりやよくわかる
凡夫の信心つづかぬと
行信ともに落第と
しらしてもらえばようわかる
大悲の願心よりないと

念仏詩人木村無相さんの
他力本願の味わい

☆☆☆

題材法話

浄土真宗のみ教え⑩
「他力本願ー2」

＊拝読「浄土真宗のみ教え」の14頁をお読み下さい。

前号からのつづき

現在は「誤用」されることの多い「他力本願」という言葉ですが、もともとは阿弥陀さまの本願を疑い、自らの罪福を信じて念仏以外の行為で仏に成ろうとする「自力」の行いを戒められ、その「自力」に対応する言葉として曇鸞大師が使われた言葉でした。

したがって「他力本願」と言う言葉は、「阿弥陀さまの根本の願いを聞き、往生浄土の道をすべてお任せする」という意味で、浄土真宗のみ教えにおいてはとても大切な言葉なのです。

○磁石のたとえ

そこでその阿弥陀様の「他力本願」について、さらに味わわせて頂きたいと思います。

親鸞聖人は教行信証の中で阿弥陀如来の他力のはたらきを「なお磁石のごとし」と示しておられます。

この磁石のたとえを私が敬愛する原田弘宣師が法話の中でつぎのように述べておられます。

『親鸞聖人は阿弥陀如来の大悲を磁石に喩え、つぎに「本願の因を吸うが故に」と救われる側の種を示しておられます。磁石が釘を吸引するとき、釘に磁気を吹き込んで吸引します。これを物理学では「磁化する」と言うそうですが、阿弥陀如来は私達に、阿弥陀如来の大悲心を吹き込んで下さるのであります。私の所に入り込んだ大悲心即ち仏心を信心と言います。私が仏になる種は、私が信じるような信では駄目なんです。私が仏になる種は、仏心以外にあり得ません』。

釘が磁石に吸い寄せられるのは、釘自体の力によるものではありません。どんな立派な釘でも自分で動くことはできませんけれども、ひとたび磁石の磁場に入った時には、どんな釘でも平等に吸い寄せられます。

それは、釘自体はなんら変わらないのですが、磁石が鉄の中に入り込んで、鉄を磁石の性質に変化させ（磁化）た上で、吸い寄せられるからなのです。すべてが磁石の働きによるものです。

釘が磁石に吸い寄せられるように、私達は阿弥陀様に吸い寄せられます。

阿弥陀如来の本願の働きが、まさに磁石が釘を引き寄せて、中身を磁石に変えるように、如来の仏心が、聴聞によって私の中に吹き込まれ、凡夫が凡夫のままで必ずさとりを開く身とさせて頂きます。

これこそが「他力本願」なのです。

○自信教人信

さらにもう一つ磁石について味わい深いことがあります。

子どもの頃、磁石に吸い寄せられた釘につぎつぎとつなげて遊びました。

磁石に磁化された釘は、別の釘を磁化して吸い寄せることができるのです。

この様子は見た目には釘の力によって別の釘を吸い寄せている様に見えますが実際はすべてが元の磁石の働きによるものなのです。

それが証拠に、最初の釘を磁石から切り離した途端に、すべての釘がバラバラになってしまいます。

浄土真宗の念仏者の大事な姿勢に「自信教人信」という言葉があります。

この言葉は善導大師がお示しになられ、親鸞聖人は「みずから信じ、人を教えて信じしむ」と釈しておられます。

浄土真宗はお念仏を悦ぶ人（自信）の姿を見て、その人が念仏者に育てられていく（教人信）という世界です。

ただしこれも、けっして人が人を育てているのではなく、すべての釘が元の磁石によって吸い寄せられているように、阿弥陀様の大悲そのもののはたらきによるものであります。

例会住職法話より